

町村自治確立研究会 10 月例会のご報告

文責：担当理事・初村尤而

町村自治確立研究会 10 月例会を次のとおり開催しました。

[日 時] 2013 年 10 月 21 日 (月) 午後 2 時～4 時 30 分

[場 所] 大阪自治体問題研究所会議室

[内 容]

1 . 各町村の 2012 年度決算状況の背景

初村が、2012 年度途中に民主党政権から自公政権に変わったことなど、2012 年度財政の背景について説明しました。民主党政権の一般会計当初予算は 90.3 兆円、それに自民政権の 13.1 兆円の大型補正予算が加わり、国家財政が巨大化しました。自治体へは引き続いて一般財源を確保するとともに、経済対策として公共事業の拡大を求めて財源を補助・交付するなど複雑な国の財政対策があった年度でした。また、人件費の削減を初めとする新自由主義的行政改革も依然として続き、その結果財政指標が全体的に好転している様子であることを報告しました。指標の「好転」によって、実質公債費比率や将来負担比率がマイナスになる自治体が増えました。

そのあと町村から、2012 年度決算議会をめぐる状況、町村行政での焦点などについて報告がありました。以下は、初村が討論をメモしたもので不正確な部分があると思います。不明な点をご指摘ください。

[千早赤阪村]

合併しないと村はつぶれる、という村の主張に対してわれわれは「そんなことはない」と主張してきた。財政指標はすべて好転し、われわれの主張が正しかったと村民は評価してくれている。ただ、この好転は、住民負担を増やしてきた結果という側面もあり、乳がん検診、保育料などの住民負担を増やし、村内巡回バスを廃止するなど、行政としての役割を果たさなかった結果である。何もしないで貯め込んできた。3 年ほど前から人間ドックの料金は積立金を活用して半額負担を 3 割負担にしたが、人間ドックはお金持ちしか受けられない。村は翌月の診療報酬（医療給付費）を試算しているが、月に 2,700 万円くらいが 4,500～4,600 万円へと高くなっている。だから基金を取り崩せないと村は言っている。国保の積立金残高は 1.66 億円で減っていない。村民の間では、村が黒字を自慢するのは「アホ」、しっかり行政をやってトントンにするのが役所のすることではないかとの意見がある。

村役場の建て替えが検討されている。役場で雨漏りした。災害時に指令場所がつぶれたらどうするのか、といった心配もある。検討委員会で検討中である。

[河南町]

町決算はすべて黒字で、後期高齢者会計も黒字。一般会計も黒字だったが、これには反対した。財政指標は近年良くなった。箱ものを作らず、貯金を増やし借金を減らした。竹中平蔵氏の財政破綻論などの行革が効いてきたのだろうか。職員はあきらめムードだ。

「ふれあいの湯」が老朽化、廃止を議会が決めたが、高齢者が 1,700 筆の署名を集めて撤回させ、補正予算が付き移転が決まった。住民パワーが運動で存続を勝ち取った。

町長・教育長の退職金（町長は 4 年間で 1,650 万円）を減額させた。／中学校体育館の建て替え工事が開始した。これで教育施設の耐震化はすべて終了する／ゲリラ豪雨のため町内で川のようになった箇所がある。小学校からナイアガラの滝のように流れる箇所もあった。消防は 1 万 6 千人の町で単独実施（23 人体制、1 億 5 千万円）しているが、広域化を進めている／給食センターが建設される／保健福祉センター「かなんぴあ」設備が増設される／夏休みの小学校のプール開放、町民がアンケートを取っている。

[意見交換] 学校プールと市民プールとでは基準が違う。水質、シャワー、更衣室などに違いがあり、開放は難しいのではないかと。月 1 回程度なら学校施設の範囲で行ける。富田林は校区単位で中学校プール開放させたが、対象は生徒だけ。大人も利用できる一般開放は難しい。泉南市は委託料が低いので人手が不足した。業者が集まらないという事情もあり、開放は難しくなっている。町民プール初め社会体育施設は老朽化するなかで縮小の傾向にある。能勢町にはプールがなく、亀岡市の運動公園や箕面・吹田などを利用している。施設を広域に使えるようになったので、千早赤阪村のプールには他自治体の住民も来る。以前は、村外住民の料金は高かったが、今は均一になった。減収になるので値上げの動きがある。委託化が進み、公営体育館には予算が付かない。全国統計で社会教育施設の数を取らなくなった。更新時期になると施設を廃止する傾向にある。

監査委員になると具体的資料を見ることができ、政策的判断やデータの請求もできることは重要だ。監査委員が議会で発言できるかについては、できるところ、やらないところなど様々だ。能勢町では、監査委員は議会でしゃべれない。このように監査委員になることは微妙な問題があることを考慮して決めるべきではないか。議会で質問に答える責任も出てくる。住民監査請求が出れば、監査委員は答えなくてはならない。千早赤阪村では決算特別委員会を全員制にしたが、太子町では監査委員は特別委員会に所属していない。監査報告書をなおざりに作らないことも大切だ。例月監査はデータが役に立つ／大阪府では事務局監査と監査委員監査（判断の是非）の 2 段階がある／いずれにしる監査委員制度の検討は議会改革のテーマである。

[太子町]

2012 年度一般会計決算額は歳入歳出ともに 40 億円台半ば。実質収支は 1 億円程度の黒字。黒字 1 億円に加え基金が 3 億円積み立てられた。平成 17 年度から黒字が続いている。積立金が増え残高 21 億円になった。地方債残高は 40 数億円。うち 6 割が臨財債。経常収支比率 80% 台。町税も増え、たばこ税も多い。公共料金は総じて高いが、値上げしない努力はしている。行革、人件費削減や、最近国から交付金が多く出ている。元氣

交付金も積立金に回った。乳幼児医療拡充、ワクチンの無料化は進んだ／主な普通建設事業費では、小中学校の建て替えで耐震化が進んだ。一般財源はゼロで、積立金を活用して行った／財政状況が良くなったにもかかわらず下水道・国保への繰り入れをしない。国保の繰り入れをすれば国保料を下げることができるのにやらない。人件費・住民負担が増加している。財政健全化法が効いているのかもしれない。積み立てを増やす理由として、「将来への不安、政権変わって交付金が減るかもしれない、災害が起こるかもしれないなど」をあげ、不安を煽っている。財源を老朽化対策などハードだけに使う。

[意見交換] 箱もの行政を批判してきたが、維持管理費が必要になってきた。上下水の配管の故障。維持更新の計画が必要。今の財政計画はカット（減らす）して、黒字にすることを目的にしているだけで、カット分で住民サービスを拡大する計画がない。

[島本町]

一貫して黒字財政が続いている。しかし、町は苦しい財政とやってきた。現実には、借金を減らし、積み立てを増やしている。国保やコミ焼却場にお金がかかっている。小中学校の耐震化 48%で遅れている。保守系議員は建て替えを要求し、どちらが適正かを検討することになった。そのために耐震化がすべて止まった。決算に対して共産党は不認定の態度をとった。理由は、人権文化センターで職員が無断欠勤にして旅行していたなど。

消防職員 77 人の基準に対して現員は 39 人。1 時間 3 ミリを超える雨が降ると巡回している。水路が多いため、スクリーンを設置。水路とスクリーンの清掃を職員がやっていた。その結果、水の災害は減ったが、土砂崩れが方々で発生し避難指示がでた。

小中学校のエアコンがようやく付いた。

[能勢町]

2012 年度一般会計決算は歳入 49 億円、歳出 46 億円、3 億円の黒字だった。国保は 3 億円の基金を持ったまま、1 億 5 千万円を繰り越した／小学校 6 校、中学校 2 校を 600 人規模の 1 校にする学校統廃合計画がある。しかし、生徒数は将来は 300 人位に減る見通し。42 億円かけて府民牧場跡地に建て替え、平成 28 年 4 月に開校予定。財源は 20 年ほど前から積み立ててきた基金を活用。建設費 42 億円のうち町単費は 17～18 億円だろう。他にスクールバスが必要で、少なくとも年間 7 千万から 1 億円かかるようだ／町には財調基金が 32 億円。その他国保、退職手当基金（5 億円）もある。なぜ基金積み立てが多いのか、町の話では、毎年 3 億円以上を財調に積み立てると「どこか」から指摘があるようで、オーバーした分は退職金の積み立てなどにして逃がしている。／その他に火葬場に町単費 6 億円が予定されている。向こう 10 年間の財政見込みでは、この 2 つを入れても平成 34 年度まではマイナスにはならないと町は試算している。ただ、廃校後どうするのか、30 棟を壊す経費約 10 億円は計上なし。また、町には消防署がなく、消防団でやっているが、平成 27 年度から豊中の分署を置いてもらうことが決まり、経費は年間 1 億円かかる。こうした経費を含めると平成 30 年度で財政計画はパンクするのではないか。町は、二つの事業をやるためにずっと「計画的」に積み立ててきた。こうしたことは住民が

十分に知っている状況ではない。今夜から校区単位の説明会が始まる。

「介護政策評価支援システム」(注)を見ると、能勢町は在宅介護が低く、施設介護が高い。忠岡町は逆だ。忠岡町ではどういう施策をしているのか知りたい。施設介護が高いのは介護保険料に影響してくる。能勢町の介護保険料が高いのは施設介護が多いからか？これをどのように見たらよいのか、データの活用方法を知りたい。能勢町では地域包括支援センターを直営でやっている。町内には高齢者向けの改造ができないような古い家が多いのが現状だ。要介護者訪問などを国保事業の範囲内でできないか。

(注) 介護政策評価支援システムについては次のサイトをご覧ください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/CHOJUS/HP/kaisei/SVOL/SVOL178.pdf>

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000133sr-att/2r98520000013nud.pdf>

[意見交換] 能勢町は、学校は地域集中方式、介護は施設型で、「能勢町は地域で抱える」意識が弱いと考えていいのか。能勢町の人口は減少し 5～6年後に 1 万人を切る。40 歳代以下が減少し、人口 1.1 万人のそのほとんどの 1 万人が有権者という構成、「都市型限界集落」状態と言えようか。谷間に集落がある。集落の雰囲気としては「よその集落は別のムラ」という意識が強い。旧村意識が強く、学校が 1 校ずつあったのがそのまま残っている。／ただ、こうした意識は地域問題を考えるうえで大事だ。学校がなくなると地域は減じる。分校にすると単費が増える。こうした状況で学校システムをどうするのか考える必要がある。

千早赤阪村の総合計画では人口 6 千人を維持すること。しかし実際には人口を増やす方法を考えずに、お金を減らす計画しかない。

[和泉市]

財政プランを作り、それに基づいてやっている。土地開発公社は解散した。病院は国の借金によって経営面での成果出てきたが、徳洲会を指定管理者にする計画を立てた。経営形態を問わず病院を残すことを重点におくのか、「公」の維持を重視するのか、地域によって違いがある。／議員活動で必要なデータを議会事務局に求めて集めることが大切だ。

2. 国民健康保険会計の基金の積み立てについて

前回の例会で話題になった国保会計の基金の積み立てについて初村がその経緯などについて調べた結果を報告しました。それを元に意見交換をしました。別紙の資料を参照してください。

千早赤阪村では、国保料も引き下げる条件があるのにしなかった。年度末になって、国や府からの補助金が余れば返済するのに、住民に対しては黒字や基金がたくさんあっても保険料を下げずに、同じ料率を続けている。積立金を活用して住民サービスを充実せよと主張しているが……。

保険料額や法定外繰り入れとの相関関係を入れた資料をつくってはどうか。

河南町は、法定外繰り入れを 12 年間 500 万円に固定している。もっと増やせと主張し

ている。

[次回例会の予定]

次回例会を、12月2日（月）午後2時～4時30分に研究所にて開きます。メインテーマは「**防災計画と町村財政**」です。各町村の防災計画と防災予算などを報告し合い、特徴や問題点などを話し合います。予算・財政に限定せずに各町村の幅広い防災行政について情報交換します。